

C O R R E N T E

Centro Culturale Italo-Giapponese di Kyoto

イタリアそろばんの旅④

* イタリア語の数字 *

木下 和真

イタリア経済とファッションの中心地ミラノ。中央駅から地下鉄で30分ほど行ったところにミラノ授業補習校がある。

補習校とは、普段現地の学校に通っている子どもが日本語を学びに来るところだ。生徒はイタリア人と日本人のハーフ、両親共に日本人だけでも生まれも育ちもイタリアの子、そして、親の都合でイタリア暮らしをしている日本人の子など。週に一度、土曜日の午後に授業がある。



【補習校の標語】

彼らの多くはイタリア語と日本語のバイリンガル。一言でバイリンガルと言っても、圧倒的にイタリア語が優勢な子もいれば、日本語が優勢な子もおり様々だ。その上、英語を話す子もいるし、中にはフランス系の学校に通っている子もいる。

私はある土曜日、そんな子どもたちの前でそろばんの話をする機会を得た。

講演は暗算大会で始まった。スクリーン上に数

字が表れ、その合計を求める。正解した子には、用意しておいたそろばんキーホルダをプレゼントした。子どもたちはゲーム感覚で積極的に表れる数字と格闘してくれた。

暗算大会が終わると、私は、

「キーホルダーをもらった子は立ってもらえますか」

と言った。そして、こう聞いた。

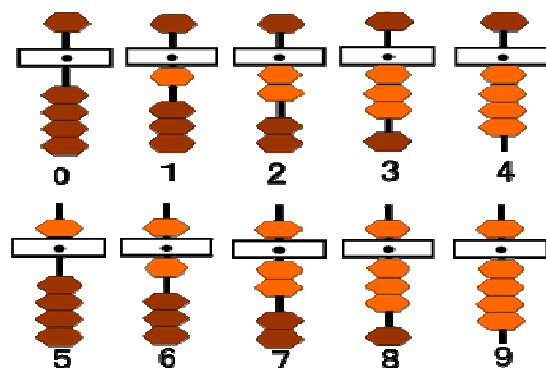
「計算をするとき何語で考えましたか？」

正解を出した子どもたちは互いに顔を見合わせながら、小さい声でささやき合っている。

一番多く正解した子が「日本語です」と答えた。

結局、立ちあがった子が7人ほどいたのだが、結果は一人を除いてすべて日本語、残りの一人は「英語かな、日本語かな」と答えていた。残念ながらイタリア語で計算したという子は一人もいなかった。

もちろんこれだけの結果で判断することはできないが、イタリア語より日本語のほうが計算に向いているように思う。イタリア語を学んだこと



る人はその数詞の複雑さから、単純にそう感じる人も多いのではないだろうか。

イタリア語の数詞は0(zero ゼロ)、1(unno ウノ)2(due ドウエ)3(tre トレ)4(quadro クワトロ)5(cinque チンクエ)6(sei セイ)7(sette セツテ)8(otto オット)9(nove ノーヴェ)10(dieci ディエチ)。

そろばんではこれらの数を、珠であらわす。そろばんは中央にある梁という部分で二つに分かれている。梁より上の部分は天と呼ばれ五珠が一つ、下の部分は地と呼ばれ一珠が四つついている。五珠は一つで5、一珠は一つで1の価値を持つ。1から4までは一珠の個数がそのまま数字になる。5は五珠一つで表わされる。6以上は五珠と一珠を組み合わせる。6なら、五珠ひとつと一珠一つ。5と1で6というわけだ。7から9も同様に表す。天と地を分けている梁の方向に向かうと数字をいれたことになる。

この天と地という表現、日本では様々なところで上下を表すときに使われるが少々古めかしい響きがする。以前英語版のそろばん解説本を読んだとき、これらを heaven と earth と翻訳しているのを見たことがある。ならイタリア語ではどうなるのだろうと思い、補習校の生徒に聞いてみた。

答えてくれた女子中学生もバイリンガル。すぐに翻訳してくれた。訳してくれたのはいいが発音が良過ぎてまったく聞き取れない。私のイタリア語力の無さを痛感する。何度か繰り返し聞くうちに、地のほうは terra と理解できた。しかし、天がまったくわからない。

いっこうに理解できない私に、女生徒は

「日本語でパラダイスっていうでしょ。それ」

と、教えてくれた。正しくは paradiso なのだが、日本人向けにわかりやすく表現してくれているのだ。

パラダイス！ なんとという美しい響き。

そろばんの中にパラダイスがあるとは！

私はやけにその言葉が気に入る、パラダイス、パラダイスとつぶやいていた。そんな私をよそに、その子は「cielo のほうがいいかな」と、真剣に対応する訳語を考えてくれている。

「パラダイスで行こう。パラダイス。これからイタリアではこの部分はパラダイスと呼ぶことにするね」

私は paradiso という正しい表現を理解せぬまま

言った。もちろん冗談なのだが、その子は「やめて、やめて」と恥ずかしそうに笑っていた。

一桁の次は二桁、問題はここからだ、11から20を私の心の叫びと共に紹介する。

11 ウンディチ ウノじゃなくてウンなのね

12 ドーディチ どーよそれ……

13 トレディチ 素直でよろしい

14 クワトルディチ アクセントが……

15 クインディチ チンはどこへ……

16 セイディチ やっと落ち着いたと思ったら。

17 ディチャセツテ どうしてディチャが前に来る？

18 ディチヨット ちょっと待って

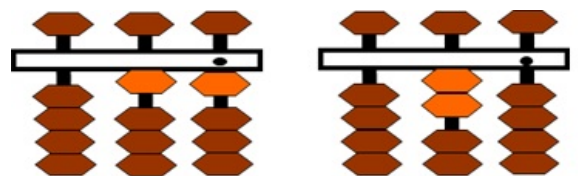
19 ディチャノーベ なんかべちゃとした感じ

20 ヴェンティ ヴェンはどこからやって来た？

心の叫びを補習校の子どもにも話すと「うん」「ちん」「べん(ヴェン)」という言葉だけで小学生は笑いだす。女子中学生なら声を押し殺して笑う。

それに、ある高校生は幼いころ16をディチャセイだとずっと思っていたと話してくれた。小学校に上がって初めてセイディチだと知ったという。両親共に日本人の子なので母語の干渉だろうか、はたまた言語習得装置が働いたのか、バイリンガルの頭の中はなかなか複雑だ。

イタリア語に比べて日本語の数詞は簡単だ。一から十まで覚えてしまえば後は組み合わせで行ける。十と一で十一、二つの十で二十となり、子どもにも簡単に理解できる。そして、そろばんで表させた数もびたりと日本語に対応している。十の位の1と一の位の1で11、十の位に2なら20となる。その上、アラビア数字ともびたりと対応している。このことがそろばんで複雑な計算を可能にしている一つの理由である。



11

20

そろばんを教えるのに数詞は必須だ。頭では分かっている、なかなかさっと反応できない。ヴ

エローナの授業でもたくさん間違えた。まずは4と5。5が cinque とはどうしても結びつかず、quattro が5に思える。御多分に漏れず6(セイ)と7(セツテ)もよく間違えた。似ているのであらかじめ注意せねばと心に留めておくのだが、授業後にコラードさんに指摘される。

「あなたはいつもセイとセツテを間違えます」

そして、一番間違えたのは、14クワトルディチと15クインディチだった。間違うと先生からも生徒からも容赦なく訂正がはいる。一度や二度ならまだしも、繰り返し間違えると、冷めた目で一言

「クワットル・ディチ！」

この年になって九歳児にあきれ顔で訂正されるとは…

小さなイタリア語の先生は発音にも厳しい。

クワットル・ディチ

クワツを速く言って、トルにアクセントを置く、そしてさっとディチを付け加える。

何度この発音を直されたことか。

クワットル・ディチ

と、言い直されるたび、

なんで・でき・ないーの

とも言われたかのように、このアクセントが耳から離れない……

20を超えてもまだまだ難関が残っている。最大の難関は60(セッサンタ)と70(セツタンタ)だった。

しかし、これはある方法で見事に克服できたのだ。セッサンタをサンタクロースとセツトにして覚えるのだ。60は12の倍数。私の頭の中でサンタクロースの12月と見事に結びついた。

60が出てくると赤い衣装とひげをイメージする。そしてセッサンタクロース、セッサンタクロースと心の中で言うておき、セッサンタ…でぐっと止める。

サンタクロースでないほうが70だ。この覚え方をしてからは、ほとんど間違えることがなくなった。

ある日ちょうど60が出てきたときだった。私は笑わせてやろうと思い言った、

「セッサンタ セッサンタ セッサンタクロース」

どうだとばかりに子どもたちを見る。「似てるね」なんて言葉を期待していたのだが、反応は一

切無し。

発音が悪いのだろうか？ イタリア語風アクセントでもう一度言ってみた。

「サンタクロース！」

子どもたちはさらに戸惑った顔をした。誰も何もわからないようだ。こういう時はあきらめが肝心だ。すぐに何もなかったふりをして次の説明へと進んだ。

なぜこんなにも無反応だったのだろうか。そうイタリア語ではサンタクロースとは言わないのだ。

「イタリア語でサンタクロースは、バッポナターレといいます」

私の話を聞いた補習校の子どもたちが、笑いながら教えてくれた。

イタリアという地で普通の学校と補習校に通う子どもたち。イタリア語と日本語というバイリンガルの生活を送っているからこそ、私の苦労も分かってくれ、そして笑ってくれる心優しい子どもたちだった。

しかし、バッポナターレとは…… サンタクロースとはなんとまた似ても似つかない……



【講演風景】

これだけ複雑なイタリア語の数詞も、百の位から規則的になる。cento(チエント)、duecento(ドゥエチエント)、trecento(トレチエント)……

ここまで来てやっとほっとできたのもつかの間、私は大事なことに気付いた。今、教えているのはそろばんの基礎。一か月の授業では百の位まで進まないのだった。

(当館語学受講生)

『カルヴィーノとアーティチョーク』

第10回

堤 康徳

去る3月25日、アントニオ・タブッキが亡くなった。リスボンで闘病中だったことも私は知らず、突然の訃報に言葉を失った。その直前、まったく偶然にも、私はこの連載(4月号)で、作家が来日したさいの個人的な思い出とその京都滞在記について書いていた。日本にも多くの読者のいた作家の言葉をこの場で再度紹介して、哀悼の意を表したい。

Marco Alloni
dialoga con

ANTONIO TABUCCHI
Saudade di libertà



【Saudade di libertà表紙】

作家はなぜ書くのか、作家は何を書くべきなのか。作家である以上避けて通れないこれらの問いに対する答を探しながら文学とは何かを語るタブッキの真摯な声が、2011年に出版された作家のマルコ・アッローニとの対談(Marco Alloni

dialoga con Antonio Tabucchi. *Saudade di libertà*, Alberti Editore, 2011)からは伝わってくる。

自作と歴史とのかかわりがテーマの本書第一章でとくに注目されるのは、タブッキが、小説第一作『イタリア広場』を、歴史から排除された者たちの視点から見られたイタリア史の試みと定義している点だ。本稿でとりあげたいのは、次の第二章における、「作家の真正性」(l'autenticità di uno scrittore)、あるいは「文学テキストの真正性」をめぐる発言である。なぜならタブッキは、ここで、野菜を描くという営みを例に挙げて、作家が書くべきことは何かを明瞭に語っているからである。タブッキは、「作家の真正性」が「自分自身にたいする誠実さ」に存すると述べたあとで、さらにこのように続ける。

ある作家が、その特定の瞬間に、歴史から排除された者たちについて書きたいという願望を心の底から感じているとしましょう。彼はそれを書かねばなりません。もし書かなければ、自分自身を裏切っていることとなります。一方(中略)、もし彼の窓から見える風景を書きたい(そこに花々があり、春が訪れようとしているので)、あるいはまた、自分の菜園について書きたいという願望があるとしましょう。彼の菜園にニンジンの種を撒いたので、その瞬間にニンジンが彼の思考を占めているからなのですが、もしそうであれば、自分の菜園について書くのは正しいことなのです。(中略)

作家は、つねに自らが感じることに応答せねばならず、けっして、感じてもないことを書くように自らを強いてはなりません。いかなるものも、語りうるのです。すべてのものに、語られるだけの正当性があります。存在するものすべてが語られるに値するからです。ニンジンもまた存在します。ひょっとして、ニンジンは語られるに値しないでしょうか？ それに、ご承知のように、1本のニンジン語ることはけっして簡単ではありません(pp. 24-25)。

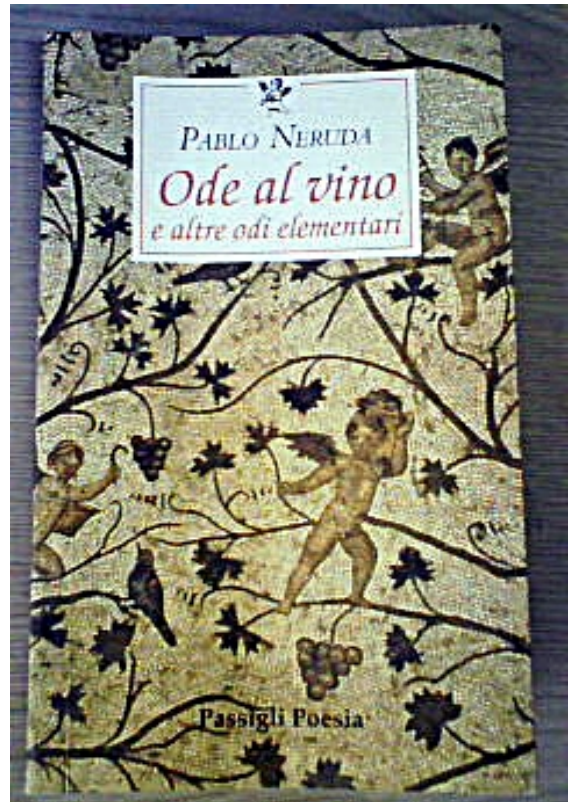
このあと、タブッキは、マネの描いたアスパラガスに言及する。マネは卓越した静物画を描いたが、なかでもその最高傑作は、おそらく、画家の心理を表現している1本の寂しげなアスパラガスの絵

ではないかと述べたあとで、再びニンジンのお話に戻ります。

ニンジンは注目すべき野菜だと思われたい。地面のなかで、頭をさかさまにして成長する、かわいそうに。この世には、私たちの目にさらされることを好む美しいものもありますが。暗闇のなかで、さも恥ずかしげに、重力の法則に過剰なまでに従順に、頭をさかさまにして成長する被造物があると考えるだけで、私たちの関心を引きます。ある日、あなたが菜園に降りて、地面から出ている緑の房をつかみ、力をこめて見事なニンジンを引き抜き、ニンジンが浴びるに値する光に当たるとします。きっとあなたは、ニンジンにオード(頌歌)を捧げたいとも思いませんか。まさに、ニンジンへのすばらしいオードを書いたネルーダがしたようにです(p. 26)。

タバッキのニンジンを見るまなざしは、逆説を愛し、事物を多面的に、真理をさかさまに見ることのできた作家ならではのものだろう。「いかなるものも、語りうる」(Tutto è narrabile)とタバッキは言う。すべてが叙述可能だ、と。しかし、日常性に埋没した個々のものから、内奥にひそむ輝きを見つけ出すのは、マネやネルーダ、それにタバッキのような見者でなければ至難のわざだろう。

チリのノーベル賞詩人、パブロ・ネルーダ(1904-73)の作品に、タマネギ、トマト、パン、ワインなど、生活に不可欠な食物へのオードを集めた詩集『基本的なものへのオード』(Odas elementares, 1954)がある。たとえば、タマネギは、「まばゆい羽の鳥よりも美しい」、トマトは「新鮮で奥深い無尽蔵の太陽」と形容される。しかし、私の調べたかぎり、「ニンジンへのオード」は見当たらなかった。ニンジンには、「アーティチョークへのオード」(Oda a la alcachofa)のなかにわずかに顔を見せるにすぎない。この詩を全部、西伊対訳版(Pablo Neruda, *Ode al vino e altre odi elementari*, a cura di Giovanni Battista De Cesare, Passigli Editori, 2002)から訳出してみよう。この詩には、柔らかい心臓をもつがゆえに苞の鎧で身を固めたアーティチョークの冒険が、ユーモラスに、寓話のように描かれている。



【Ode al vino e altre odi elementari 表紙】

柔らかい心臓の
アーティチョークは
戦士のように装った、
直立して、小さな丸屋根を建て、
苞の下で身を守った、
その横では
錯乱した野菜たちが縮れ、
蔓、ミクリ、
興奮する球根となった、
地底では
赤い口ひげのニンジンが眠った、
ブドウの木は
ワインの出る蔓を枯らし、
キャベツは
スカートを穿き始めた、
オレガノは
世界を香りで満たした、
そして甘いアーティチョークは
その菜園で
戦士のように装って、
輝いた、

ザクロのように誇り高く、
 そしてある日、
 大きな籐かごに
 身を寄せ合い、
 市場に行った、
 自らの勇壮な夢の
 実現のため。
 市場で整列した姿は
 このうえなく勇ましかった、
 白いシャツの男たちは
 アーティチョークの准尉だった、
 列がつめられ、
 命令調の声と、
 箱の落ちる音が響く、
 だがそのとき
 マリアが進み出る、
 買い物かごをもって、
 アーティチョークをひとつ選ぶ、
 それを恐れることなく、
 点検し、凝視する、
 まるで卵のように光にかざし、
 それを買い、バッグに投げ入れる、
 そこには一足の靴や、
 玉キャベツや一本の酢のビンもある、
 そしていよいよ台所に入り、
 それを鍋に浸す。
 こうして終わりをとげる
 平和裏に、
 アーティチョークという名の
 武装した野菜の経歴が、
 それから
 苞を一枚ずつ
 美味なるものを

私たちは脱がし、
 緑の心臓の平和なパスタを
 食べる。

故国から亡命したネルーダは、1952年にナポリ湾に浮かぶカプリ島とイスキア島に滞在している。『イル・ポステイーノ』(1995年、マイケル・ラドフォード監督作品)は、この時期のネルーダ(フリップ・ノワレ)と、世界じゅうから届く詩人宛の手紙の専属配達人となった島の男(マッシモ・トロイージ)との友情を描く映画だった。

詩人が、海を見下ろす庭で、紫色のタマネギを一心にむく場面があった。「タマネギへのオード」を詩作中だったのかもしれない。『基本的なものへのオード』は、1952年から54年にかけて執筆された作品を集めているので、「アーティチョークへのオード」や「タマネギのオード」がイタリアで着想された可能性もあるだろう。

イタロ・カルヴィーノは、1951年1月14日のある手紙で、「このところトリノにネルーダがいるのでわれわれはみんな忙しい」と書き、詩人を *simpatico tipo di trombone* (「大口を叩く気さくな人物」というほどの意味だろうか)と評している。翌年1月16日の画家レナート・グットウーゾ宛の手紙では、エイナウエディから出版予定のネルーダの詩集を詩人のナポリ滞在中に出したいから、約束の挿絵を送るようグットウーゾに促している (Italo Calvino, *Lettere 1940-1985*, Mondadori, 2000, pp. 315-316)。

カルヴィーノは、ネルーダの「アーティチョークへのオード」を読んでいただろうか？

(翻訳家、慶應義塾大学講師)

… 会館 だより …

イタリア語 無料体験レッスン

7月より開講の夏期イタリア語講座に向けて、体験レッスンを開催します。入門者向け。事前予約制。

- 梅田：大阪駅前第4ビル
- 7/ 1 (日) 13:00~14:30
- 7/ 3 (火) 19:00~20:30
- 四条烏丸：ウイングス京都
- 7/ 3 (火) 19:00~20:30

● 京都本校：日本イタリア京都会館

- 6/29 (金) 11:00~12:30
- 6/30 (土) 11:00~12:30
- 6/30 (土) 13:00~14:30

スペイン語 無料体験レッスン

入門者向け。事前予約制。

- 日時：7/ 2 (月) 19:00~20:30
- 会場：日本イタリア京都会館 本校
- 講師：当館スペイン語講師

ポルトガル語 無料体験レッスン

入門者向け。事前予約制。

- 日時：7/ 6 (金) 11:00~12:30
- 会場：日本イタリア京都会館 本校

編集・発行 / (財) 日本イタリア京都会館
 〒606-8302 京都市左京区吉田牛の宮町4
 TEL: (075) 761-4356/FAX: (075) 761-4357
 E-mail: centro@italiakaikan.jp
 URL: <http://italiakaikan.jp/>